

ひびき

とても元気だった息子

筋ジストロフィーの息子、錬志郎は、30歳の誕生日まであと2か月という昨年7月末に旅立ちました。筋ジストロフィーは、筋肉細胞が徐々に壊れていく病気ですが、日本だけといわれる福山型は、多様な筋ジストロフィーの中でも重症の者が多く、ほとんどの場合、知的障害を伴います。息子も重度の身体・知的障害者でしたが、有数の元気な患者と言われていたので、大変ショックでした。

息子は、水泳が大好きで、5年ほど前までは、毎週近くの区立プールに通っていました。

中学校の途中まで自転車の2人乗りで、それ以降は車に乗せ、一緒に泳ぐのが私の楽しみで

息子に伴走してもらい頑張ります

ダイバーシティ就労支援機構 岩田克彦

した。明るい子で、日曜日朝の「ハンディキャット水泳教室」でも、区立の生活介護施設でも、非常にかわいがっていただきました。満20歳の誕生日を中野サンプラザで盛大に祝ったことが、この前のように思い出されます。

障害者就労との出会い

筋ジストロフィー福山型は潜性遺伝（劣性遺伝）で、その遺伝子を保有する男女（日本人の約80人に一人）がたまたま出会って生まれた子どもは4人に一人がなるもので、日本人10万人あたり1ないし2人と計算されています。私の場合、旧労働省に入り、鹿児島県職業安定課長のとき、障害者雇用のPRが縁で出会った女性と結婚し、息子が生まれました。

役所の仕事では、鹿児島県と北海道の職業安定課長のおり障害者雇用にかかわったほかには、労災リハビリテーション作業所の再編に関与したくらいでしたが、仕事の合間に、ライフワークで障害者就労に取り組んできました。これも、息子が重度障害者ということを、「大いに利用して」、障害者関係の多くのリーダーや現場で活躍されている方々にお会いできたおかげです。そ

して、60歳を過ぎて、就労継続支援A型事業所
全国協議会（全Aネット）や社会福祉法人生活
クラブ風の村などのかかわりができ、現在の
ダイバーシティ就労支援機構につながっていま
す。

障害者就労とダイバーシティ就労

現在、私が代表理事を務める一般社団法人ダ
イバーシティ就労支援機構は、日本財団から「日
本財団WORK! DIVERSITYプロジェクト」を受託しています。ひきこもり、難病患
者、刑余者、貧困母子世帯、生活困窮な高齢者
など、何らかの事情で働きづらさを抱える人々
が日本にもたくさんいます。こうした人々を就
労の場につなげる本格的政策を打ち出したいと、
日本財団の竹村利道シニアオフィサー、慶應義
塾大学の駒村康平教授等と一昨年11月に日本財
団のプロジェクトをスタートさせました。

ダイバーシティ就労には多くの意味が込めら
れています。第1に、社会の一員として、多様
な働きづらい人々の働く環境が整備され一緒に
働くこと、第2に、いわゆる保護就労者サポー
ト付き就労と一般就労と、多様な働き方で働く

いわた かつひこ

1977年労働省入省。労働省統計調査第一課長、労働政策研究・
研修機構統括研究員、職業能力開発総合大学校教授などを経
て、2018年7月から一般社団法人ダイバーシティ就労支援機構代
表理事。専門は障害者の雇用・就業問題、職業教育訓練政策。
著書に『障害者の福祉的就労の現状と展望』（松井亮輔法政大
学名誉教授と共編著）など。

（一社）ダイバーシティ就労支援機構 (<https://jodes.or.jp/>)



ること、そして第3に、多様なメンバーからな
る地域ネットワークが構築されていて、労働行
政、厚生行政が協働して多様な形で支援するこ
とです。多様な障害福祉関連施策、生活困窮関
連施策、雇用・訓練施策を存分に活用し、多く
の就労支援サービス事業者を取り込み、就労困
難な人々向けの就労機会の開発やステップアッ
プのはしごの構築などをめざしています。

新型コロナウイルス問題で苦しいときですが、
こうしたときこそ、根本的なセーフティネット
として打ち出す意義は大きいと考えています。
7月に公表した報告書、8月に拡充した「ダイ
バーシティ関連情報」などをダイバーシティ就
労支援機構のホームページでぜひご覧いただき
たいと思います。

諸外国の「障害者」は、社会的障害者等も含
むように変わってきています。日本で生活する
人々を仕事の場に大きく包みこむ、こうした社
会の実現は、障害者の方々にも好影響をもたら
します。今後とも、障害者就労、そしてダイバー
シティ就労に、息子、鍊志郎と対話しながら取
り組んでいきたいと思えます。